

## アンデス氷河監視のための ALOS データ利用検討

## Availability of the ALOS data for glacier monitoring

# 富山 信弘 [1]; 小野 誠 [1]

# Nobuhiro Tomiyama[1]; Makoto Ono[1]

[1] RESTEC

[1] RESTEC

<http://www.restec.or.jp>

近年、地球温暖化の影響と考えられる氷河後退が深刻化している。氷河後退が地域環境に与える最も深刻な影響のひとつは水資源の枯渇である。アンデス氷河の水資源は、周辺地域の飲料用水や農業用水、水力発電など、生活のあらゆる場面で利用されているため、その蓄積量を正確に把握する必要がある。一般的なりモートセンシングでは、氷河域の面積を求めることはできるものの、体積すなわち高さを見積もることは困難であった。3つのセンサを搭載する ALOS は、PRISM による立体視、および PALSAR による InSAR という2つの手法により高さを求めることができるため、氷河の体積の見積もりに応用が期待される。

本研究では、アンデス山脈のほぼ中央に位置するボリビアの氷河地帯をテストサイトとして、ALOS データを用いた氷河環境モニタリングのための技術開発を目指すものである。氷河域の高さ情報の抽出では、PRISM 立体視および PALSAR インターフェロメトリの結果を組み合わせることで、より広い範囲において高度を求めることができた。